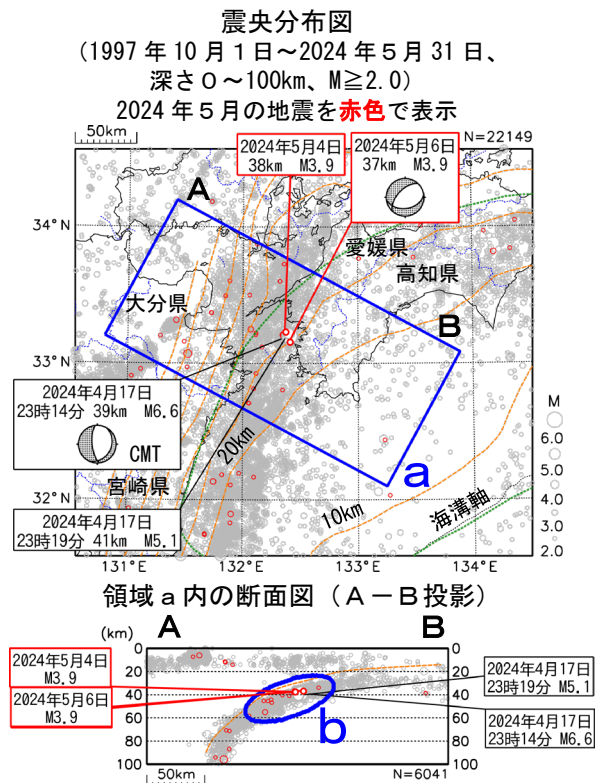
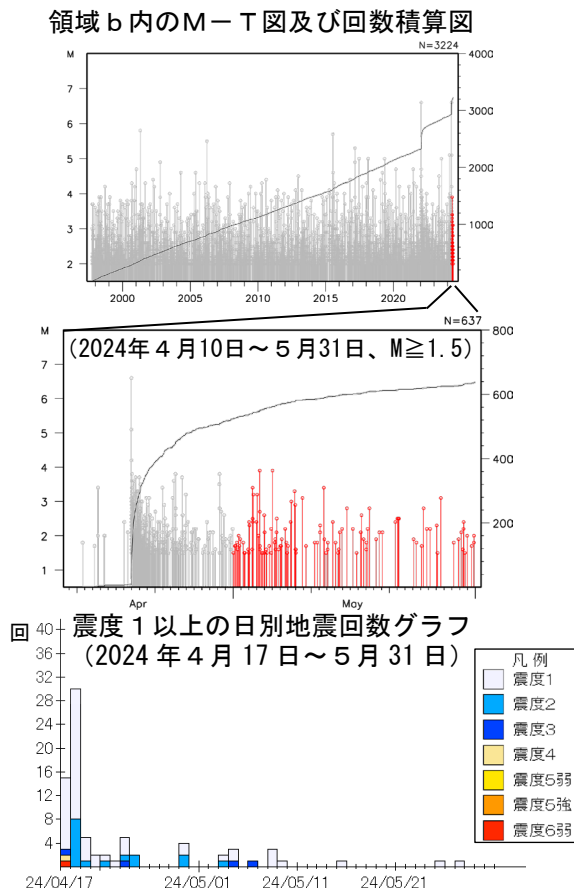


4月17日からの豊後水道の地震活動



橙色の破線は、Baba et al. (2002)、Hirose et al. (2008)、Nakajima and Hasegawa (2007)によるフィリピン海プレート上面のおおよその深さを示す。
緑色の破線は、南海トラフ巨大地震の想定震源域を示す。



豊後水道では、4月17日のM6.6の地震（最大震度6弱）の発生後、地震活動が活発となり、4月17日23時から5月31日までに震度1以上を観測した地震は79回（震度6弱：1回、震度4：1回、震度3：4回、震度2：16回、震度1：57回）発生した。このうち、5月中の最大規模の地震は、4日09時40分に豊後水道の深さ38kmで発生したM3.9の地震（最大震度3）及び6日00時50分に深さ37kmで発生したM3.9の地震（最大震度3）である。これらの地震はフィリピン海プレート内部で発生した。発震機構は、5月6日の地震は北北西-南南東方向に張力軸を持つ正断層型である。地震回数は減少してきているものの、地震活動は継続している。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）では、M5.0以上の地震が時々発生している。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、M6.0以上の地震が時々発生している。「平成13年（2001年）芸予地震」では、死者2人、負傷者288人、住家全壊70棟などの被害が生じた（被害は総務省消防庁による）。

